

## 「6回目の年男」

今月は「6回目の年男」としての誕生月です。12年前、5回目の年男の際には、還暦だったため今と異なった感慨がありました。それは現役生活と時代を区切る「定年」と重なったためよけいにそんな感情が出ていたのかもしれませんが。

それからもう12年！「アッ」という間の経過でした。還暦を過ぎると時はますます速く駆け抜けていく。「古希」も瞬時に通り過ぎ、十二支の回転も6回目に達したのです。



今年の年賀状にも書きましたが、私は巳年の動物とは相性がまったく合いません。ゴキブリや毛虫は平気なのに、その動物を見たとき一目散に逃げ出すような状況なのです。

それでも、ものの本によれば、巳年生まれは「探究心があり情熱的」「恩を忘れず助けてくれた人に恩返しをする」とも言われ、「イメージは良くないが、実は良い年なのです」とも書かれています。この際、私もその良い面だけを心に据えて走っていきたいと思っています。

実際に干支の定義に科学的な根拠があるかどうかわかりませんが、何事もポジティブな面だけ捉えていった方が人生は楽しくなる。9年前、うつを患って以来、とりわけそのように考えるようになりました。過ぎたことをクヨクヨしても仕方がない（以前はそういう性分だった）。成人になってから40年以上も欠かさず綴ってきた日記も、「過去を振り返るのは精神的に良くない」とやめたのです。こうして、いやなことはできるだけ忘れ、未来を志向する生き方に切り替えました。「すべてはこれから始まる」という仏法で説く「本因妙」です。幸いにも、そんな生き方が効あってか、私は病を乗り越えてからは以前よりも元気になったような気がします。

ポイントは、過去の経歴に関係なく立場や恰好を気にせずどんな仕事でもやれるようになったことです。周囲の支えに以前よりも感謝できるようになったこと。他の人に喜んでもらう、役に立ちたいというボランティア的な志向が強くなってきたこと、等々です。そんななかで、この8年間に世界文学紀行で15の名作の舞台を訪ねることができたのは望外の収穫だったと感謝しています。



そして先月は、千葉県八千代市で、文学紀行の現時点での総集編ともいえる内容の講演の機会をいただきました。そこでも述べましたが、今年は日中関係が落ち着いたなら「三国志」と「大地」の舞台を訪ねたい、またこれからは日本文学の作品にも目を向けていきたい、と考えています。

悲しいことですが、70歳も超えると小学校から大学に至るまでの仲間の訃報が増えてきました。となればまずは健康管理と体力づくり。そのための努力を。1日1万歩、マンション7階の部屋まで階段を上ること、水泳、テニス・・・そして恵まれた環境に感謝しながら、明年の午（馬）年にジャンプしていきたいと願っているところです。